

3DWS人体解剖学体験

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会 長 田 中 宏



東日本大震災を期に学校教育の中で「放射線について学ぼう」という文部科学省の推奨があり、埼玉県診療放射線技師会では公益事業の一環とし

て2014年より県立高校を対象に放射線の安全利用について本会が授業を一部担ってきた。放射線について一番身近な診療放射線技師が教壇に立つということは社会的に意味のあることだと考えている。しかし、埼玉県は災害が少なく、原子力施設もない。年が経過するにしたがって、次第に需要は減っていった。

そこで、本会の新たな事業として、「3DWS人体解剖学体験」を学校教育の中で展開していくことを目標に掲げた。医療は医療従事者だけで担っているわけではない。医療機器やソフト開発により、格段に医療技術が進歩したことは明白であり、誰よりも私たち診療放射線技師が実感している。この事業で、私たちは診療放射線技師のアピールをしようとは思っているわけではなく、医療はさまざまな分野の人たちの努力で支えられていることを知っていただくことを目的としている。例えば、医療従事者になるためにはチーム医療を構築するためにコミュニケーション能力が重要だといわれる。しかし、中にはコミュニケーションが苦手な生徒もいることも事実だ。現代医療はさまざまなソフトで医療が支えられており、ソフト開発という進路もあることも職業選択肢の一つになればという思いで企

画した。

この企画を学校教育の中で取り入れていただくためには、まず、需要があるかを実証し実績としてのテストケースが必要だ。2017年、大宮ソニックシティで開催された埼玉県診療放射線技師会主催の学術大会でさいたま市の小中学校に対して、さいたま市教育委員会の協力を得ながら開催した。参加者は18人であり、参加者の年齢や知識に合わせた講義を行うことができた。参加者の中には現役の理科担当の教師もいた。2019年の全国大会では新聞などの協力も得て93人の一般参加があった。この実績を基に、埼玉県内の私立中高一貫校に案内を送付した。すると2週間ほどで県内有数の進学校3校の申し込みがあった。もちろん、「鉄は熱いうちに打つ」が基本であり、担当理事と学校訪問を行った。担当の教員からは、「生徒へ3DWSのテクノロジーと医療の現場での実例を話していただきたい」という熱い思いを感じた。また、机上の学習だけでなく、参加型の授業を目指しており、お話をさせていただいている私たちが楽しみになってくるほどであった。他校との違いを常に模索しており、教育に対するモチベーションの高さを感じた。

私たち診療放射線技師会は職能団体であり、設立目的は「県民の為」である。学校教育の中で教壇に立ち教育の一端を技師会として担えることは学会や研究会ではなく、他ならぬ職能団体である診療放射線技師会が行うべき事業だと考えている。